

スマートシティさいたまモデルの推進

概要
 美園地区をさいたま市が目指す理想都市の縮図とするために、AI、IoT、データを活用することで、人と人とをつながりであるコミュニティをしっかりと形成するとともに、住民等が抱える様々な社会課題を解決する生活支援サービスを提供することが可能なエコシステムを構築することで、定住・交流・関係人口の増加、市民生活の質の向上、地域経済の活性化、脱炭素化の促進を進める。

課題

- ・さいたま市の人口の将来的な減少 ・地域コミュニティの形成
- ・「超高齢社会」への突入と「生産年齢人口」の減少による経済規模の縮小への危惧
- ・持続可能な成長・発展できるまちづくりの推進

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	さいたま市が理想とする都市の縮図であるスマートシティのモデルの構築	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・アーバンデザインセンターみそのを拠点としたエリアマネジメントを地域コミュニティを形成しながら推進 ・スマートホーム・コミュニティにおけるコモンスペースの創出とコミュニティの形成 	モビリティ、健康、エネルギー、コミュニティ、データの5分野の知見
スマート	AIやIoT、データを活用した社会課題の解決	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市OS(共通プラットフォームさいたま版)を活用した、交通やヘルスケアなどの生活支援サービスの提供(別添資料参照) ・スマートフォンを活用したコミュニティの形成 	都市OSの推進支援、及びサポート支援
レジリエント	スマートホーム・コミュニティの整備	進行中	高気密高断熱、太陽光発電及び蓄電池等を活用した脱炭素化並びにコモンスペースを有し、電線地中化を実現した街区の整備	事業参画

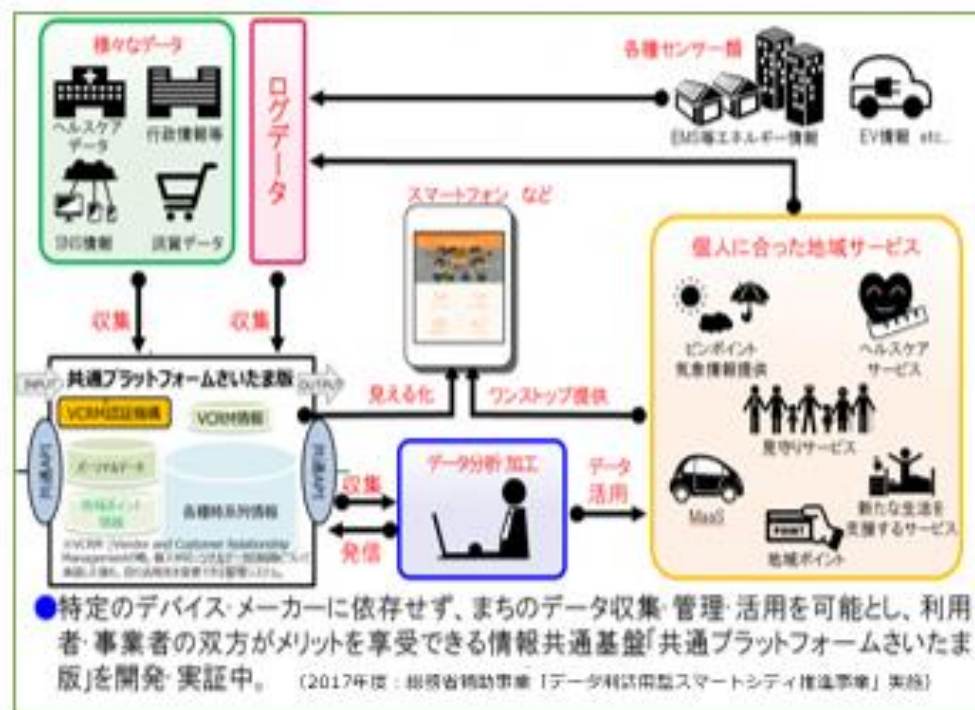
さいたま市におけるスマートシティの取り組み



共通プラットフォーム さいたま版

◆都市OS「共通プラットフォームさいたま版」の特長

様々なデータの運用・連携が可能



①・情報提供先の選択が可能

VCRM機構

(Vendor and Consumer Relationship Management)

サービス提供事業者と住民の双方から情報の権限管理を行う機能

②・他の自治体と共用が可能

・他のPFとの連携も可能

FIWAREに準拠…他自治体との連携が容易

共通プラットフォームさいたま版 共用による自治体間連携

他自治体と共通プラットフォームさいたま版の 共用を目指します

PF共用のメリット

◆コスト減

整備済みの
プラットフォームで

- ・1からプラットフォームを整備する必要なし
- ・維持管理費用の軽減

◆「安心」

- ・個人情報やデータ利活用に関する規約の整備
- ・ノウハウの提供

さいたま市で
実証済み

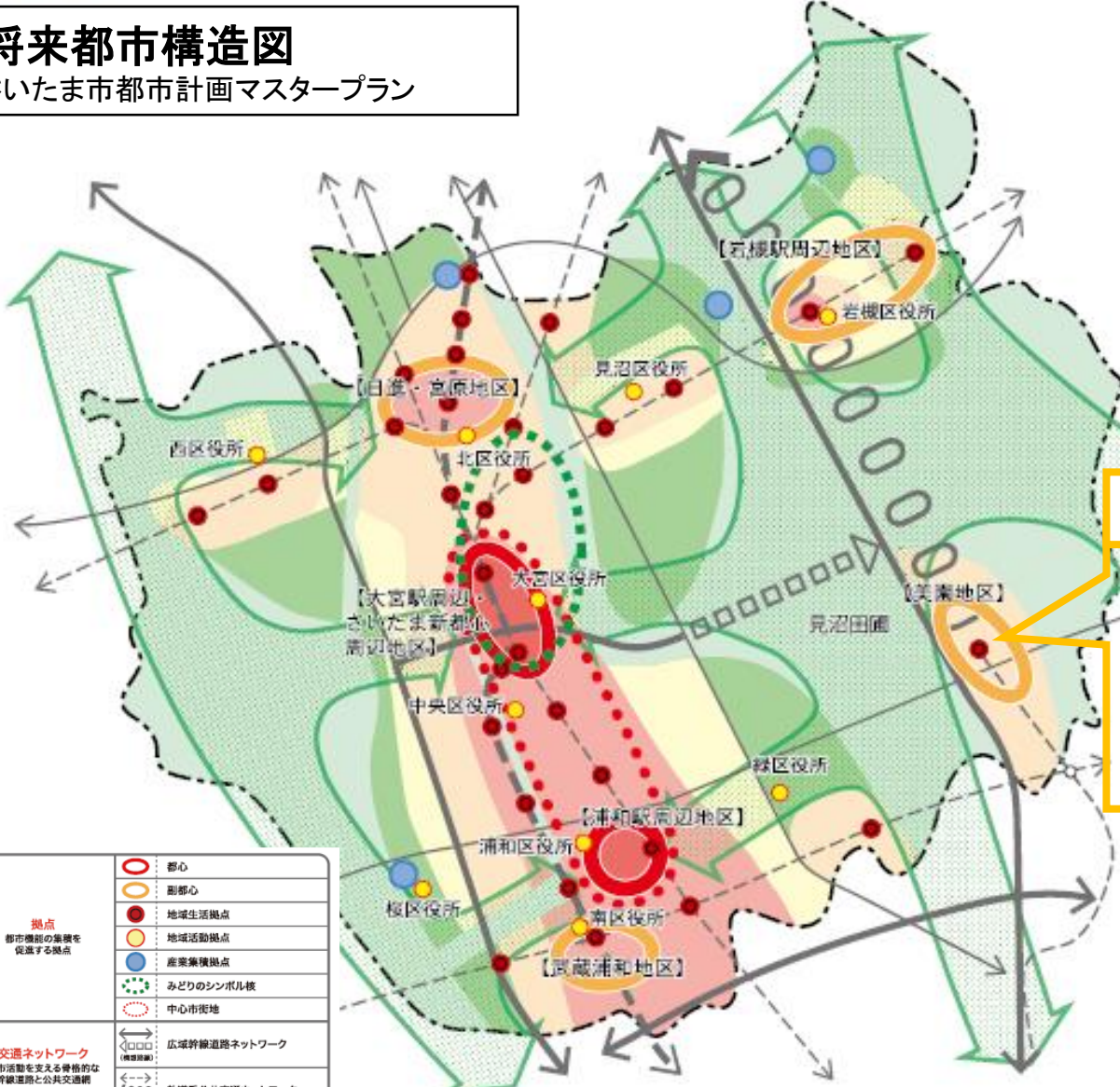
◆サービスも共用

サービスの横展開により、他自治体のサービスも利用可能



将来都市構造図

さいたま市都市計画マスタープラン



美園地区

「埼玉スタジアム2002」などの地域資源を生かしながら、「スポーツ、健康、環境・エネルギーを軸に先端的なライフスタイルを創造する副都心地区」の形成を目指す。



美園地区 (アーバンデザインセンターみその)

拠点 都市機能の集積を促進する拠点	<ul style="list-style-type: none"> 都心 副都心 地域生活拠点 地域活動拠点 産業集積拠点 みどりのシンボル核 中心市街地
交通ネットワーク 都市活動を支える格別な幹線道路と公共交通網	<ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路ネットワーク 軌道系公共交通ネットワーク
主な都市空間のゾーニング 密度にメリハリのある都市空間	<ul style="list-style-type: none"> 高密・複合機能ゾーン 高密・広域機能ゾーン 中高密生活ゾーン 低中密生活ゾーン 低密生活ゾーン 緑地・集落ゾーン
水とみどりのネットワーク 地域資源の活用による「環境インフラ」の形成	<ul style="list-style-type: none"> 環境インフラ



<美園地区の特徴>

- 2001年に土地区画整理事業が認可され市街地形成が開始した“新しいまち”
- 市内でも高い人口増加率
- 特に子育て世帯の流入が顕著(約79%が子育て世帯)

➡ 美園地区を目指す理想都市の縮図へ

スマートホーム・コミュニティ



みその都市デザイン方針: 美園地区が目指すべき都市デザインの方向性

(H29.4、みその都市デザイン協議会)

都市デザインの方針

新価値創造都市	方針1	サッカー観戦者などの来街者をもてなすホスピタリティある環境と、日常的な賑わい・交流を創出する都市機能や活動を誘導しながら、市の副都心に相応しい都市環境を形成する。
多世代健康都市	方針2	安心・安全で心地よい居住空間と、公共交通・歩行者・自転車を中心とした交通環境ネットワークを整えながら、健康を育み、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境を形成する。
次世代環境都市	方針3	見沼田園や綾瀬川水系につながるみどりの目節を形成しながら、安全・快適で落ち着いた雰囲気の良い街並みを誘導し、低炭素・循環型の持続可能な都市環境を形成する。

基本理念

都市デザイン方針図(拠点と都市軸の方針)



- 拠点**
- 都市核(浦和美園駅周辺)**
- 美園を象徴する緑豊かで品格ある空間にする
 - 副都心として多様な都市活動を支える快適・便利・賑わいのある空間をつくる
- 埼玉スタジアム2002公園**
- 健康・スポーツに取組み、緑の拠点となる公園にする
 - 世界に誇れる快適なスタジアム環境をつくる
- 綾瀬川・調節池**
- 治水機能を維持しながら、健康を育みスポーツに親しみやすい親水空間や憩いの場づくりをする
- 学校・公園**
- 緑豊かで安心安全な居住空間の核となるような環境をつくる
- 特徴的な居住エリア**
- 環境・エネルギー・自然・健康等をテーマに美園地区のモデルとなる居住エリアをつくる

- 都市軸** ↔ **都市骨格軸**
- 緑豊かで品格のある景観と快適な歩行環境・自転車走行環境を形成する
 - 都市間交通の中心となり、街の入り口を演出する
- ↔ **拠点アクセス軸**
- 拠点間を結び都市生活の中心となる緑豊かで歩行者優先環境をつくる
 - 特に都市核と埼玉スタジアムを結ぶ軸は、大勢のサポーター通行に対応し、サッカーの街に相応しい緑豊かな「スタジアム参道」を形成する
- ||||| **オープンスペース・自然環境軸**
- 緑と水の拠点を連続させ、健康を育みスポーツに親しみやすい都市環境を形成する
 - イベント開催などによる賑わい・交流の場をつくる

都市デザインの戦略

戦略の組み立てイメージ

- ① 主要な拠点・都市軸上に質の高い空間を形成する
- ② 空間上に人の活動やコミュニティの「場」を生み出す
- ③ 地区全体の「場」をネットワーク化する



戦略1	緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる
戦略2	サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる
戦略3	健康を育む緑と水の拠点を連続させる
戦略4	安心安全・快適な居住環境をネットワークする
戦略5	都市デザインをマネジメントする

都市デザイン戦略図

